



『非文字資料研究』（旧『年報 非文字資料研究』）への寄稿について

人類文化の研究は、人間それ自身と人間が織り成す社会を研究することを目的とするが、その研究は文字で表現された資料を主な対象として行われてきた。しかし、人間の活動とその結果生み出されるものは、文字で記録されたものに止まらない。絵画・写真・映画・建築・民具・音声などの形で記録されたり、地形や景観あるいは人間の身体それ自身に刻み込まれたりもする。さらに、匂い・しぐさ・味覚・感触など「記録化」することが難しいものも、人類文化を構成する大事な要素である。

非文字資料研究センターは、そのような文字以外の記録及び文字では表現されにくい人間の諸活動を「非文字資料」として体系化し、それを研究する新しい方法を開発し、より包括的な人間と文化の理解にいたることを目指している。21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003－2007年度）以来、わたしどもは、その目的を達成するために＜図像＞＜身体技法＞＜環境・景観＞のなかから研究課題を絞り込み、共同研究を展開してきた。この共同研究は、歴史学・民俗学はもとより、文化人類学、比較文化論、美術史、建築史、災害史、情報科学などを専門とする内外の研究者によって支えられてきた。

このように多様な学問的広がりをもつ非文字資料は、世界各国の地域文化の諸相を具体的かつ可視的に示す絶好の資料であるとともに、資料自体が多層的な時代・地域において蓄積されてきた背景をもっているため、研究方法としても比較歴史的な視点を求めるものであり、ひいては、人類文化研究の総合的・学際的な発展の可能性を有している。

しかし、研究資料の分析指標の設定、意味の解読という困難な作業には、研究概念と成果の普遍性が求められる。また世界共通の標準的・普遍的な研究資料の資料化・体系化を行うには、世界各地の関連学問分野の研究者による相互検証が不可欠である。本センターの研究活動においても、関係研究者との共同作業を必要としている。

『非文字資料研究』は、世界の各地域において活躍されている非文字資料研究者からの寄稿を歓迎し、本誌が多分野にわたる研究者相互の学問的遭遇の場として発展するとともに、人類文化の豊かな研究に寄与することを期待する。

2016年度より誌名を『年報 非文字資料研究』から『非文字資料研究』へと変更し、年2回の刊行となりました。寄稿をご希望の方は、当センターのホームページをご覧ください、執筆要項等の詳細をご確認ください。

エントリー募集期間：前期 1月～3月 後期 7月～9月

原稿締め切り：前期 5月末 後期 11月末

※原稿ご提出後、査読があります。

エントリー用紙：当センターのホームページよりダウンロードしてください。

執筆要項：当センターのホームページよりご確認ください。

表記・書式細目：当センターのホームページよりご確認ください。

エントリーシートの提出・お問い合わせ先：非文字資料研究センター

E-mail: himoji-info@kanagawa-u.ac.jp

ホームページ：<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>

2018年度 センター研究員・研究協力者

センター研究員

名前	所属部局	職名	研究班
小熊 誠 (センター長)	歴史民俗資料学研究所	教授	4, 6
熊谷 謙介 (副センター長・運営委員 (編集担当))	外国語学研究所欧米言語文化専攻	教授	2
後田多 敦 (事務局長・運営委員 (研究事務総括・編集担当))	歴史民俗資料学研究所	准教授	6
孫 安石 (運営委員 (国際交流担当))	外国語学研究所中国言語文化専攻	教授	5
大川 啓 (運営委員 (研究会担当))	歴史民俗資料学研究所	准教授	9
内田 青蔵	工学研究科建築学専攻	教授	5, 7
大串 潤児	信州大学 人文学部	教授	9
大里 浩秋	神奈川大学	名誉教授	5
菊池 敏夫	外国語学部国際文化交流学科	特任教授	5
木下 宏揚	工学研究科電気電子情報工学専攻	教授	8
小松原 由理	外国語学部国際文化交流学科	准教授	2
駒走 昭二	外国語学研究所	准教授	4
昆 政明	歴史民俗資料学研究所	特任教授	7
佐野 賢治	歴史民俗資料学研究所	教授	7, 8
ジョン・ボチャラリ	明治大学文学部	客員教授	1
菅 浩二	國學院大学神道文化学部	教授	6
須崎 文代	工学部建築学科	特別助教	5
鈴木 陽一	外国語学研究所中国言語文化専攻	教授	1, 3
ステファン・ブッヘンベルグ	外国語学研究所欧米言語文化専攻	教授	2
田上 繁	神奈川大学	名誉教授	7
津田 良樹	神奈川大学	元助教	6
富澤 達三	松戸市立博物館	学芸員	4
鳥越 輝昭	外国語学研究所欧米言語文化専攻	教授	2
中島 三千男	神奈川大学	名誉教授	6
中林 広一	外国語学部国際文化交流学科	准教授	3
能登 正人	工学研究科電気電子情報工学専攻	教授	8
信岡 朝子	東洋大学文学部日本文学文化学科	准教授	5
彭 国躍	外国語学研究所中国言語文化専攻	教授	5
前田 孝和	株式会社 神社新報社	取締役総務部長	6
松浦 智子	外国語学部中国語学科	助教	3
三笠 友洋	西日本工業大学デザイン学部建築学科	准教授	7
宮田 純子	芝浦工業大学 通信工学科	助教	8
村井 寛志	外国語学研究所中国言語文化専攻	教授	5
森住 哲也	工学部電気電子情報工学科	特別助教	8
森山 優	静岡県立大学国際関係学部 大学院国際関係学研究所	教授	9
安田 常雄	歴史民俗資料学研究所	特任教授	9
渡辺 美季	東京大学大学院総合文化研究科	准教授	4

研究協力者

名前	所属部局	職名	研究班
新垣 夢乃	東京福祉大学	特任講師	9
稲宮 康人	—	写真家	6
上原 兼善	岡山大学	名誉教授	4
王 京	北京大学外国語学院日本語学部	教授	3
王 子成	外国語学研究所中国言語文化専攻	博士後期課程	3
大木 康	東京大学東洋文化研究所	教授	3
何 彬 (カヒン)	首都大学東京都市教養学部	教授	1
吉川 良和	神奈川大学	元教授	3
君 康道	東京大学大学院総合文化研究科	講師	1
栗原 純	大阪経済法科大学	客員教授	5
小島 摩文	鹿児島純心女子大学 国際人間学部	教授	4
小松 大介	沼津市歴史民俗資料館	臨時嘱託職員	8
小山 亮	公益財団法人 広島平和文化センター	研究員	9
齋藤多喜夫	横浜外国人居留地研究会	会長	5
鈴木 一史	一般財団法人日本遺族会 (昭和館) 学芸部学芸課企画係	学芸員	9
高津 孝	鹿児島大学法文学部	教授	4
田島 奈都子	青梅市立美術館	主査 学芸員	5
田中 里奈	明治大学大学院国際日本学研究所	博士後期課程	2
陳 小法	浙江工商大学 東亜研究院	副院長/教授	3
得能 壽美	法政大学沖縄文化研究所	兼任所員	4
富井 正憲	漢陽大学校建築学部	客員教授	5



名 前	所属部局	職 名	研究班
中井 真木	明治大学大学院	特任講師	1
中村 慧	歴史民俗資料科学研究科	博士後期課程	7
中村みどり	早稲田大学 商学部	准教授	5
丹羽 謙治	鹿児島大学学術研究院 法文教育学域法文学系	教授	4
橋口 亘	南さつま市教育委員会 (坊津歴史資料センター 輝津館)	主査	4
原田 広	(元) 非文字資料研究センター	(元) 事務職員	9
松本 和樹	歴史民俗資料科学研究科	博士後期課程	9
萬井 良大	日本常民文化研究所	客員研究員	7
山口 建治	神奈川大学	名誉教授	3
李 利 (リリ)	非文字資料研究センター		1
レリソン, エドワール L'erisson Edouard	エクスマルセイユ大学		6
若宮 幸一	旧古河鉱業若松ビル	館長	7
渡邊 奈津子	公益財団法人 大学基準協会	調査員	6

研究班：1. 『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』 編纂共同研究
 2. 絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活
 3. 第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』編纂のための基礎作業
 4. 日本近世生活絵引一行列から見る都市生活空間—
 5. 東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業

6. 近代沖縄における祭祀再編と神社
 7. 中世景観復元学の試み—北九州市若松区の惣牟田集落を事例として—
 8. 非文字資料研究のコミュニティにおける知識とサービスの効率的な検索と安全安心な流通研究
 9. 戦時下日本の大衆メディア研究

2018年度 奨励研究者決定

研究課題	氏名(所属)
モンゴル人家庭の食事空間青海省海西州の牧畜民を中心に	阿 盈娜 (歴史民俗資料科学研究科博士後期課程)
内モンゴルにおけるラマ廟の社会的機能の変遷の研究	英 荀 (歴史民俗資料科学研究科博士後期課程)
ヤマアテによる歴認識の諸相	太田原 潤 (歴史民俗資料科学研究科博士前期課程)
現代日本における海難者供養の祭祀習俗と地域的展開	小野寺 佑紀 (歴史民俗資料科学研究科博士後期課程)
中国海南省における伝統的な航海術についての研究	齋 鳴奇 (歴史民俗資料科学研究科博士後期課程)

編集後記

本号で『非文字資料研究センター News Letter』は40号を迎えました。冒頭の新センター長の挨拶でも触れられているように、15年で40号もの活動報告が出せたのは、ひとえに研究員の方々による活発な研究活動のたまものです。また本号にも掲載されている、招聘研究員・派遣研究員のレポートは、研究所間の国際交流を証すものとなっており、ニューズレターでは引き続き、非文字資料に関わる研究成果を報告していきたいと考えています。また、2018年は同時に非文字資料研究センターが発足して10年を迎えるという年です。これまでの活動を振り返りつつ、「非文字資料研究とは何か」を改めて考える良い機会であり、その題材として、このニューズレターが何らかの貢献が果たせればと思います。(K.K)

表紙説明

表紙は、1815年に薩摩藩にて作成され将軍に献上された『薩藩勝景百図』第1景の一部である。描かれているのは、鹿児島城下に広がる鹿児島港と、そこに近接して設けられた琉球館で、画面からはカットされているが、その向かいには噴煙をあげる桜島が描かれている。琉球館は、琉球から薩摩に派遣される役人の滞在施設で、異国風の三角の双旗が印象的に翻っている。港内には、同様の旗をなびかせた琉球の公用船(楫船)が停泊している。中国の伝統船(ジャンク船)のスタイルで、周辺の薩摩船(和船)とは大きく異なっている。江戸時代の薩摩は琉球という異国を支配する特殊な藩であった。この絵はそのことを雄弁に物語っている。詳細は『薩藩勝景百図』に基づいて作成された『日本近世生活絵引南九州編』をぜひご覧いただきたい。(M.W)

主な研究活動

運営委員会

2017年度

- 第7回 2017年12月6日 (1)非文字資料研究センター・センター長選出について、(2)『非文字資料研究』査読に関する申し合わせについて
 第8回 2018年1月24日 (1)運営委員の選出について、(2)国書刊行会からの商業出版企画について、(3)勉誠出版からの商業出版企画について、(4)2018年度展示・講演会企画について、(5)2018年度の個人研究費の扱いについて
 第9回 2018年2月9日 (1)運営委員の選出について、(2)2017年度センター研究担当者人事について、(3)2017年度事業報告(案)・2018年度事業計画(案)、(4)次年度予算の再配分について、(5)10周年企画について
 第10回 2018年3月7日 (1)2018年度海外派遣募集要項について、(2)2018年度海外招聘募集要項案(和文・英文)について、(3)2018年度奨励研究募集要項について、(4)2018年度事業計画・業務日程について

2018年度

- 第1回 2018年4月25日 (1)2017年度決算報告について、(2)2018年度予算配分(案)について、(3)2018年度「共同研究計画書」の提出について、(4)センター研究員人事について、(5)第6班公開研究会について、(6)非文字叢書Vol.2「海外神社跡地から読み解く戦後アジア(仮題)」について、(7)海外提携研究機関からの招聘研究員(サンパウロ大学)について、(8)非文字資料研究センター10周年企画実行委員会について
 第2回 2018年5月24日 (1)2018年度奨励研究審査について、(2)海外提携機関派遣研究員について
 第3回 2018年6月27日 (1)2018年度海外提携機関からの招聘研究員について、(2)公開研究会「中国・上海都市研究の新動向-円卓会議」、(3)招聘研究者の『非文字資料研究に飛び立つ』『ニューズレター』掲載原稿の編集作業の進め方について

研究員会議

2017年度

- 第4回 2018年2月9日 (1)2018年度センター研究担当者人事について、(2)2017年度事業報告(案)・2018年度事業計画(案)・2018年度事業計画(案)

2018年度

- 第1回 2018年4月25日 (1)2017年度決算報告について、(2)2018年度予算配分(案)について、(3)2018年度「共同研究計画書」の提出について、(4)センター研究員人事について、(5)第6班公開研究会について、(6)非文字叢書Vol.2「海外神社跡地から読み解く戦後アジア(仮題)」について、(7)海外提携研究機関からの招聘研究員(サンパウロ大学)について、(8)非文字資料研究センター10周年企画実行委員会について、(9)センター運営委員の選出について

研究会

公開研究会

2017年度

- 第5回公開研究会
 「絵引から見た近世の南九州」 2018年3月10日

- 第6回公開研究会
 「アジア太平洋戦争と国策紙芝居」 2018年3月25日

2018年度

- 第1回公開研究会
 「宮古・八重山の御嶽と神社」 2018年7月7日

研究班研究会

- 第3班 第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』編纂のための基礎作業 2018年2月16日
 第4班 日本近世生活絵引一行列から見る都市生活空間一 2018年3月11日
 第5班 東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業
 第60回例会「絵葉書にみる日本と中国:1894-1945」 2018年4月24日
 第6班 近代沖縄における祭祀再編と神社 2018年3月3日
 第9班 戦時下日本の大衆メディア研究 2018年3月26日

現地調査

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	6月11日	茨城県石岡市、つくば市	須崎文代
戦時下日本の大衆メディア研究	9月4日	都立多摩図書館	森山 優
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	9月13日	茨城県常陸大宮市、美和村	須崎文代
日本近世生活絵引一行列から見る都市生活空間一	10月21日~10月23日	徳島県徳島市	富澤達三
絵画・版画・写真に見られる19世紀ヨーロッパの都市生活	3月4日~3月18日	フランス (アヴィニヨン・アルル・リヨン・パリ)	熊谷謙介
東アジア開港場(租界・居留地)における日本人の諸活動と産業	3月10日~3月12日	青森県むつ市	大里浩秋
中世景観復元学の試み一北九州市若松区の惣牟田集落を事例として一	3月13日~3月15日	北九州市若松区	田上繁・佐野賢治・萬井良大・三笠友洋・若宮幸一
第二期『東アジア生活絵引(中国江南編)』編纂のための基礎作業	3月20日~3月26日	中国 (上海、杭州、蘇州)	山口建治・吉川良和